日中芸術交流会展を鎌倉芸術祭で開く

ひと　満柏さん

鎌倉芸術祭のイベントの一つとして、11月27日に鎌倉芸術館で日中芸術交流会展を開催する（6面に記事）。会長を務める日中水墨協会の画家約30人の作品を展示、来館者に中国と日本の芸術の違いを見比べてもらおうというのが狙いだ。

「水墨画への関心を高め、良さを知ってもらえれば」と期待する。

水墨協会は2005年に設立され毎年展覧会を開いているが、芸術祭にも参加したいと思っていた。鎌倉芸術祭を知り、さっそく申し込んだという。

協会の会員は約100人。日中半々だが、中国側はプロの画家、日本は愛好家の中心だ。交流会展では「中国からやって来る会員に鎌倉の風景を写生してもらい、当日展示できれば」と構想している。また、自らが講師役となり芸術講座を開き水墨画と書の基本を希望者に教える。

中国・東北地方の遼寧省瀋陽出身。同市にある魯迅美術学院でグラフィックデザインを学び、1988年日本に。桜美林大学で比較文化を学んだ。卒論は「日本の仏教と神の関係」。

卒業後、水墨画を教える仕事についた。水墨画を専門に学んだわけではないが、祖父、母親も水墨画家。そういう家庭環境なので知らずと水墨画の基本技法を身につけた。

横浜市緑区にある林光寺の天井画を描く大仕事も手掛けた。横浜、相模原、町田の3市6カ所で水墨画教室を開いている。

水墨画は、画面の構成や描き方に決まりがあり、その中で楽しむ。

「絵心がなくても描ける手軽な芸術です」と語る。見た山の特徴を取り入れて「心の山」を描くのが水墨画の考え方とも説明する。

「絵心がなくても描ける手軽な芸術です」と語る。

横浜市中区に、デザイン系の絵を描く中国人の妻と、近所の市立中学校に通う双子の息子（中3）の4人暮らし。「日本は中国のように激しい競争もなく、ゆっくりできる」と、日本の生活が気に入っている。54歳。（文・写真　三浦準司）

城跡を守り歴史と文化を次世代に繋ぐ

玉縄城址まちづくり会議

鎌倉にも城があった。そう、鎌倉市の北西、JR大船駅の南西、藤沢方面に向かう県道の南側に玉縄地域で城山と呼ばれる標高80㍍ほどの小高い山がある。龍寶寺の前の道を進み左手に見える舗装路を上ってゆくとやがて清泉女学院中学・高等学校の校門前に。左手に見える石段に向かって進むと階段下右手に鎌倉同人会が建立した案内石碑が立っている。石段はすぐに終わり、その先は深い緑に覆われ、山頂には「玉縄城址」の案内板が建てられている。「玉縄城址まちづくり会議」の荒井章会長と荒井幸子副会長にうかがった。

歴史遺産を護りコミュニティづくり

―玉縄城はいつ頃、どのような経緯で造られたのでしょうか。

戦国時代の初め、1512年に北条早雲が、鎌倉を守り三浦を攻める。さらには関東全域を手中に収めるという野望のためにこの地を選びました。というのはこの地は西に鎌倉街道上ツ道、東に下ツ道、中ツ道が走る交通の基点にあり、さらに柏尾川の戸部橋、古館橋は川湊の役割を担う水運の重要地点でした。当時は、水運がとても重要でした。

―好条件の地ということで北条氏はここに築城したのですね。

それだけではありません。北条早雲の死後その遺志を継ぎ小田原の北条氏綱と氏康、玉縄城主北条為昌、綱成が、家臣と町衆を代官に据え、十数年かけて鶴岡八幡宮の遷宮を行い、浜の大鳥居も建立した記録が残されています。関東一円の武将も協力して武家の象徴である鶴岡八幡宮を再建しました。大永・天文年間は鎌倉の黄金時代で、ここから報恩、賢実剛健の鎌倉武士の精神と武家文化が育ったと考えられます。

―玉縄城の規模は。

私たちが2016年（平成28）から始めた文化庁の補助金事業で、玉縄城址を守り、荒廃した当時の鎌倉とその武家文化の象徴である八幡宮再建を誓いました。

鎧武者が勢揃い＝2019年4月14日鎌倉まつりで

ボランティアの協働で世の中変革

―活動しているときのお気持ちは。

ボランティア活動をしている仲間の表情はいいなあ、と自身が活動しながら思います。損得勘定には目もくれない。真夏の太陽を浴びて汗みどろになりながらの草刈り。それなのに時折あきれるほどの涼しい笑顔をみせる。側溝のゴミを運んでゆく。落ち葉を掃いていく。一見物思いに沈んでいるような目をしているのですが、実はそうではないのです。

これからの世の中を変えるのはボランティアの協働の力だと思います。

鎌倉の中学、高校、女子高の生徒が時々ふらっと館や城跡遺構の保全活動のボランティアに来てくれます。最初はおずおずと慣れない手つきですが、そのうちにシッとと姿勢が決まり大い枯れ枝などを平気で運んじゃう。素晴らしく凛々しい目をして。ボランティア活動をする人はなぜか美しいと思います。

―貴会に入会するための資格や条件は。

特にありません。好きなことを、好きな時に、好きなだけ、が基本です。市外の方、県外の方もたくさんいます。上は80歳代まで現在50人の会員がいます。当会は多様な活動をしているので、会員の皆さんは自分の都合の良いときに、自分に合った作業をみつけて、その活動に没頭できます。ボランティア活動を一緒にやりませんか。

―どうもありがとうございました。

玉縄城址まちづくり会議　鎌倉市植木425―16　事務局・荒井方☎046・45・7411

玉縄城址築城500年祭で松尾崇鎌倉市長（左）と荒井会長

深い緑に覆われた城山

玉縄城址というランドマーク

―玉縄城址という城跡名を組織名にしたのは。

2006年に市民団体をつくった時、地元の市民でさえ玉縄城の存在と歴史を知っているひとはほとんどいませんでした。しかし私たちは、玉縄城が6年後に築城500年を迎えることを知っていました。そこで玉縄城址500年祭をやろう、玉縄城址をランドマークにするまちづくりをやろうと決心しました。ですから玉縄城址によるまちづくりなのです。

歴史の都鎌倉の内にある旧鎌倉地区という大ブランド600社近くが新住民である西の外れの玉縄、という対抗心もありました。

―「まちづくり」とひらがなで表現しているのは。その活動は。

まちづくりという人の集まり、新しいコミュニティづくりという意味を持たせたかったのです。構成員は私たち自身。そしてボランティアの協力を活用して「市民学芸員の養成講座」をすすめています。その市民学芸員が教える側になって小学生のための「昔のくらし体験学習」を実施しています。これまでに鎌倉の小学3年生を中心に10年間で8000人の社会科学習の校外学習を送り出し、モールや折り紙などで装飾をしていく。内側から光を当てることで壁を大丼いっぱいにプラネタリウムのように自分たちの描いたひとりの魂が光り輝く。

大きなビニールを前に、何を書いていいのかわからないのか、なかなかペンが進まない女の子がいう。同じ子が絵を描く様子を見て、おずおずと自鳥の隅の方に書き始めた。試に光を当ててみると絵がさえたなと手く映らない。

「絵をもっと大きくしたら上手く映るかな」線はもっと太い方がいいよ」と一緒に絵を描いていた学生と試行錯誤しながら大きな光りのある白鳥の絵を仕上げた。

企画のクライマックス、パラソルが一斉に点灯され、部屋中が色とりどりの絵で彩られた。床に寝転がって満足気に映し出された絵を眺めるチ、明かりを動かし絵が変わる様子を楽しむ子、子どもたちの顔は映し出された作品に負けないくらい輝いていた。

夏が終わり、子どもたちは自治活動や学芸保育での生活に帰っていく。映し出された色鮮やかな絵や試行錯誤しながらパラソルを完成させたことは光り輝くパラソルのようにキラキラとした思い出として、子どもたちの心に残ったに違いない。

鎌倉てらこや事務局☎0467・84・9746（平日3～7時）http://kamakura-terakoya.net/

心のふる里を行く ㉖

世界における日本人の自画像を描き直す

池田雅之

人間が一番認しがたいのは、自分自身のことであろう。人間は鏡に自分の姿かたち表映してみなければ、自分の顔を自らの眼で見ることはできない。また、自分がいかなる人間なのかも、家族や友人を通してしか伝わってこない。人間というものは、鏡や他者を介して自己認識ができない宿命にある。

個々人の場合と同様に日本とはどんな国柄で、日本人の国民性とは、一体どのようなものなのかと問われた時、日本人自身がこの問いに十分に答えられるとは思われないだろうと思う。自分を知るには先ほどのケースと同様、他者の眼差しが外部からの視点が重要なものとなってくる。要するにこの国際化の時代において日本とはどのような国か、日本人とはどのような国民性かをより客観的に知ろうと思えば、優れた外国人の手になる日本人論の手助けが、どうしても必要になってくる。

エドウィン・ライシャワー著「ザ・ジャパニーズ」

日本人の自画像を描き直すための格好の日本人論が、文庫本のかたちで再刊されたので紹介したい。元駐日大使で日本学者のエドウィン・ライシャワーの「ザ・ジャパニーズ」（角川ソフィア文庫）である。

40年程前に出版された本だが、今日読んでも示唆に富む。翻訳は國弘正雄氏で、初版刊行は時（1979年）、大ベストセラーとなった。今回の文庫版では、私は「解説」のお手伝いをした。日本人の長所、短所をあわせて論じているので、日本人の実像を映し出しているといえる。文庫本のキャッチコピーには、日本人が「日本を学び直す最良の手引き書！」とあり、まさにその役割を今日でも果たしてくれる書であろう。

とりわけ最終章の「世界における日本の役割」は、きわめて重要である。そこでは、日本人のメンタル面の閉鎖性や日本語の孤立性などマイナス面も論じられてはいるが、注目すべきはそこから一歩も二歩も進んで、世界の平和構築のために日本が担うべき役割を提言していることである。

日本の世界における役割とは、「21世紀の全人類が直面する諸問題の、解決策を見つけ出すという作業においてであろう」と期待と役割を提唱して本書を結んでいる。私たちはこのメッセージを受けとめ、日本人の自画像をさらに更新していかねばならないと思う。

本書の表紙の少女の写真は、写真民俗学で高名な芳賀日出男氏の作品で、「十三歳の成女の年祝」という象徴的タイトルが付けられている。「ザ・ジャパニーズ」にふさわしい凛とした一人前の女性、未来を生きる日本人の女性を感じさせる。ちなみに、芳賀氏には55年ほど前、ウイーンの目抜き通りではったりを効かせて、声をかけていただき、ご馳走になったなつかしい思い出がある。遅きに失するが、心よりお礼申し上げたい。

（早稲田大学名誉教授　鎌倉てらこや顧問）

健康百科　通信 ㉔

おいしくご飯を食べよう

歯科訪問診療担当衛生士　船越　美穂

ご飯をおいしいいただいていますか？

皆さんは一日に数回歯磨きをすると思いますが、口腔ケアをすることで口の中を清潔にするだけでなく、むし歯・歯周病の予防、口臭予防、口腔機能を維持することができます。また、全身疾患の予防、全身の健康の維持・向上に寄与するともいわれています。

訪問診療では歯科医院に行くことが難しくなった方の家に伺って口腔ケアを行っています。

ある方に「どうして磨いてもらうと歯がつるつるするの？」と言われたことがあります。私が口腔ケアをするときによくお話することは、「歯磨きをしないということは汚れた食器で次の料理を食べることと同じでせっかくのおいしい料理がおいしくなくなってしまう」ということです。

おいしくご飯を食べるためにも、健康を維持するためにも口腔ケアは一生大切です。

歯科医院に通うことができない方の家族の方は鎌倉市歯科医師会・在宅歯科医療連携室に相談ください。

鎌倉市歯科医師会　在宅歯科医療連携室　鎌倉市台2―8―1　☎0467・45・2755

いざっ!!鎌倉てらこや ㊸

輝け！みんなのてらこやパラソウル！

鎌倉てらこや事務局　豊田　晋

季節はすっかり秋の装い、燃えるように暑かった夏は遠い昔に感じられるこの頃、活動に訪れた学童保育施設に「夏休みの思い出はないかしら」と、子どもたちに問いかけた。「はい！」と、子どもたちから言われた思い出が鮮烈に呼び覚まされた。

今年で5回目となる妙本寺☆パラダイス（妙本寺合宿）が、8月9日から28日にかけて鎌倉市大町の妙本寺で開催された。妙本寺は住宅街を抜けた先、木立が茂る中に静かに佇む、凛とした雰囲気の漂うお寺だ。

妙本寺合宿は、日常的に「てらこや」が活動で訪れている鎌倉市内の学童保育施設へ、親子どもたちを対象として、寺の生活体験と、大学生による企画を実施する、特別企画である。

テーマは「輝け！みんなのてらこやパラソウル！」。透明なビニールの巨大パラソルに、油性ペンで絵を描き、モールや折り紙などで装飾をしていく。内側から光を当てることで壁を大丼いっぱいにプラネタリウムのように自分たちの描いた絵や文字が映し出され、ひとりの魂が光り輝く。

妙本寺合宿

小学生が見学に訪れた龍寶寺内の保存古民家

終の棲み家を考える ㊼

ガルバリウム

屋根に多く使われている金属の材料には、鋼版、ステンレス、アルミニウム等がありますが、金額的に鋼高になるためガルバリウムを薦めています。

石綿スレート板よりも丈夫でメンテナンスもしやすく、和風瓦・洋風瓦と比べ軽量で、地震に対しても安全性が高いのが特徴です。価格的にもカラーベストと比べて、それ程大きな違いはないと思います。

雨が降ったときの音の問題ですが、瓦や石綿スレート板と比べ音は確かに大きくなります。しかし、材料のように見えてとても素敵です。重なる部分があるので限度はありますが、なるべく厚い材料を使って自分の家の近くの業者に頼むのが一番いいと思います。

今の温熱環境を考えて創

■日向建設　鎌倉市大船1―15―3　☎0467・47・5454　http://www.hyuuga.co.jp

あなたの紙面をプロが応援します
優新聞印刷会社
超印刷業
を目指す！
当社サンケイ総合印刷株式会社は産経新聞、フジテレビ、ニッポン放送を中核とするフジサンケイグループの印刷部門の担い手として、変革を続ける幅広いニーズ、新しい感性に対応、最先端技術の導入をはかっております。
フジサンケイグループ
サンケイ総合印刷株式会社
本社　埼玉県戸田市喜沢南1-5-43　☎048-441-0111
大手町営業部　東京都千代田区大手町1-7-2　☎03-3242-3570

訪問診療・往診
医）湘南友和会
さとうクリニック
認知症対応　訪問看護
訪問介護　癌末期管理
在宅看取り　緊急時病院連携
〒247-0061 鎌倉市台5-8-29
TEL 0467-43-5220

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
診療時間
完全予約制
午前：9:00～11:30（火～土）
住所：逗子市小坪1－18－4
TEL：0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
各種健保扱・自費診療有

朝日新聞の購読料は口座振替で
・手数料は一切不要
・手続き簡単
ASA
従業員募集
詳しくは最寄りのASAへお問合せを
・専業従業員
・婦人パート
・学生アルバイト

NPO法人 ミャンマー クリニックと菜園の会 ファミリー MFCG ㉛

2歳の娘は脚気で亡くなったことに気づいた

代表理事　名知仁子

我々は、ミャンマーの僻地ミャウンミャという地域で15の村を巡回しながら移動クリニックと家庭菜園レベルの有機野菜の栽培の支援を行い、「医」だけでなく、「食」の二本柱で人の「命」を育み、「夢」を紡ぐ活動をしています。

8月13日からダボチョン村で脚気予防プログラムを開始しました。毎月参加者の家を順番に廻り、脚気予防の話を住民にします。

目的は、脚気を予防し、亡くならないように米の研ぎ汁を毎日二杯飲む習慣を持ってもらうことです。

村は一軒一軒の家が離れているので受講する住民を増やすため一軒一軒順繰りに回って近所の人たちに脚気の予防法を知ってもらう機会をつくっています。

3回目の10月4日、初めて訪問した参加者の家に来てくれた夫婦がいました。

ご夫婦は、2015年12月に当会が初めてこの村で巡回診療を開始した時に参加された方で、「保健衛生指導」に参加して初めて2歳の娘が脚気で亡くなった事を理解した」と話してくれました。

「それ以来、毎日米の研ぎ汁を飲んでいる」といい、6人産まれた子人がなくなったこと、「Beri Beri」という脚気は予防可能なのだと参加者へ伝えてくれました。

知らないために起こって

脚気予防講座に参加した村の人たち＝ダボチョン村で

亡くなったことに気づいた。

この脚気予防のプログラムは来年7月末まで継続されます。神奈川県大和市の大和日園ロータリークラブさま（小林賞会長）の御支援によって実現できました。「命」を救うには国境はないことを痛感し、感謝しました。

事務局　東京荒川区東尾久8―41―23　☎080・6807・7499　E-mail:myanmarfcg.info@gmail.com　HP:http://mfcg.or.jp/　LB:https://www.facebook.com/mfcg.or.jp

【この記事は清興堂設提供】

◎北条早雲没後五百年記念《玉縄城まつり》

玉縄城を築いた北条早雲の五百年遠忌。記念事業として早雲を偲ぶ歴史講話と古武道演武、玉縄城址探索会を開催。

11月23日　龍寶寺。

9時～墓前祭。

9時40分～早雲を偲ぶ歴史講話　伊藤一美さん

10時～後北条氏の武芸指南上東伊勢守の流れをくむ赤羽根大介さんの古武道演武。

11時～13時玉縄城址の解説付き探索会。参加料1000円。当日9時20分から玉縄ふるさと館内ギャラリーで受付。

【子ども曳馬無料乗馬体験】10時30分～玉縄幼稚園の園庭を一周。幼稚園児先着40人。

鎌倉市植木425―16　事務局・荒井方☎046・45・7411